

令和元年度総合教育会議について

1 総合教育会議とは

教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、区長との連携強化を図るために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項の規定に基づき設置した会議体。

2 開催日時

令和元年9月5日（木）

午前10時30分から午後0時20分まで（公開で実施）

3 開催場所

第三委員会室

4 構成員

区長、教育委員会（教育長、委員）5名、計6名

※その他、事務局職員として政策経営部長・総務部長ほか教育委員会事務局の部課長、成増ヶ丘小学校長が会議に出席した。

5 議 題

「魅力ある教育の推進について」

- (1) 「いたばし学び支援プラン2021」における重点課題
- (2) 板橋区立学校における教職員の働き方改革について
- (3) 教育環境のICT化と魅力ある教育について

6 会議要旨

事務局より、(1) 本年1月に策定した「いたばし学び支援プラン2021」における重点課題、(2) 本年3月に策定した「教職員の働き方改革プラン2021」の取組状況を基にした、板橋区立学校における教職員の働き方改革について、(3) プログラミング学習に関して先行研究を行っている成増ヶ丘小学校でのファーストレゴリーグの実例を交えた、教育環境のICT化と魅力ある教育について説明を行った。

これを受け、各委員から教育現場の現状報告や区の取組に対する意見が出された。

○板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の推進について

- ▽iCSの取組を通じて、保護者が地域の方々と協働する中で、学校という枠組みから、町会や自治会、青少年健全育成地区委員会などの地域組織の活性化にもつながることを期待している。
- ▽各自の特技を生かしてiCSに関わっていくことが重要である。そのためにはコミュニティ・スクール委員会の人選で、地域の中からコーディネートやファシリテートできる人材を中核に添えることが、iCS成功の秘訣であると感じている。

○教育環境のICT化について

- ▽教室は電子黒板や実物投影機などのICT化が進む一方、職員室は改善の余地があると感じている。
- ▽ICT教育には、デジタル教科書やタブレットPCを活用した授業の効率化、個別教育の充実など、可能性が無限にあると考えている。そのためにもICT教育に関するインフラ整備が重要である。
- ▽不登校の子どもたちに対しても、ICTを活用し、eラーニングを用いた学習支援のほか、インターネットを活用したコミュニケーションツールを使ってケアすることにより、不登校を解消する1つのきっかけになればと思う。

○教職員の働き方改革について

- ▽教員希望者がここ5年で3分の2に減っており、今後、教員の質の問題に影響すると考えている。部活動補助指導員などのスクールサポートスタッフの配置、電話自動応答装置の設置などにより、教員にとっても板橋区が魅力的な環境である必要があると考えている。
- ▽最近では、トラブルや個人的な相談が多く、教員がストレスと感ずることが増加しているため、働き方改革として、スクールロイヤーを配置し法律的な解決を図ればと思う。また、文書の簡素化や合理化により事務作業を軽減し、本来の教員業務に専念することで、やりがい、生きがいにつながり、働き方改革の効果が感じられると思う。

○魅力ある教育について

- ▽板橋の教育は、「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち板橋」の実現をめざしていると考えている。古いものや伝統のあるものが新しいものと融合され新たな文化として輝けるまち。そのような未来を育んでいく教育課程ができればいいと感じている。
- ▽学習指導要領は、子どもたちが活躍する2030年の社会をバックヤードにつくられている。同じく2030年の社会を意識している大きなグローバルな施策にはSDGsがある。板橋の教育は、SDGsの基本理念である「誰ひとり取り残さない」ことも大事にしていきたい。
- ▽子どもたちが、板橋区の魅力について「地域の人たちの温かい気持ちだよ」「僕たち子どもを大切に思ってくれているよね」と話していた。大変嬉しく思う。まちの人が子どもたちと一緒に育てていく、そういう温かい気持ちを大切に、次の世代につなげていきたいと思う。

これらの意見や報告を踏まえ、新学習指導要領のもと、区長と教育委員会が、今後も密接な連携を図り、質の高い教育の実現をめざしていくことが確認された。